

心の鍋が

冷えてても

愛の炎で

いつかは沸き出す

チョッと想像してみてくださいね。

あなたがもしも大きなレモンのかぶりものをして、学校を徘徊したとしたら…。

あなたがもしも学校の先生やったら、簡単に想像できますよね？

えらいことになるで〜。

「レモンさんだ〜！ キャ〜！」

なんて近づいて来てくれる子もたくさんおるけど、ときには、

「お〜い！ メロン〜！」とか、「お〜い！ 腐ったレモン〜！」

なんてセンスのいい罵声をあびます。

それだけやないでっせ！

「お〜！ レモン〜！ バシッ〜！」

みたいに、レモンを思いっきり叩いていたり、誰かと話してると、そ〜と背後か

ら近づいてきて、僕の股間に手を伸ばして…ギョッ！と大切なところをつかみながら、「これもレモンなん？」と言って走り去っていったりするんです。

もっと危ないのは、しゃがみながら子どもとじゃれ合つてるときに、レモンの後頭に思いっきり回し蹴りを入れてくる子どもとかがおるんですよ。

そんなとき、レモンさんは本気の顔してドスのきいた声で「どう〜待たなか〜」「っつその子を思いっきり本気で追いかけるんです。」

当然、逃げながらビビって泣いてしまふんですよ。

そして最後には捕まえて、抱き上げて「離せ！ 離せ！」って言うてるその子の耳元で、はじめは怖そうな低い声で、

「おい！〜お尻聞けよ！〜 レモンさんはな〜！ 君のいどがな〜…」

と、その瞬間、メッチャ高くて明るい声で、

「優じやっつて知ってるから、めっちゃ好きやね〜ん。」

そう言うた、「さ〜ら〜！ レモンさ〜ら〜」「っつて言うて立ち去っていきます。

でも、後日その子は、僕の持っている荷物を「これ持ってあげるわ〜」って言うてくるんですね。

子どもはわかりやすい！

そこで**「心の鍋」**のお話です。

人の心の中には鍋があって、その中に心の水が入ってる。生まれたころには親やまわりから**愛の炎**をもらって、心の水はホットです。

ところが、なんらかの原因でその火力が弱まり、ついには火が止まって愛を受けられなくなってしまうたら、心の鍋の水はどんどん冷えていきます。

そのうえ、世間から憎悪という名の氷を鍋に投げ込まれたりして、完全に冷水になってしまいます。

すると、その冷えた心の鍋によって、その人間はとても冷たいことを言ったりしたりし出します。

それでも誰かがまた愛の炎をつけてくれたら、再び心は温まってきますよね。

たとえば、問題行動をしている子どもに、あるお母さんが近寄って、

「あら。あなたはそんな悪いことをする子じゃないわよね。オバチャン知ってるのよ…」

と話しかけた瞬間、その子どもが

「うるさいババァー！ どっか行けよ」と叫ぶ。

ほとんどのお母さんは、そこで「無理！」とすぐにあきらめるんですね。

でも、**冷めた鍋に一瞬だけ火を与えてもすぐにはホットになりませんよね。**

根気よく温め続けることが大切で、それもはじめしばらくは見ただ目にもなんら変化はありません。

ところが、**ある時を迎えると突然お湯が沸騰するかのどとく心を開いて話し出したり、態度が変わったりするんですね。**

どんな人間もあきらめずに温め続けると、必ずその人から愛を引き寄せることができますと信じていますし、そういう経験をし続けています。

一人でがんばらなくても、みんなできたってたかって温め続けることが、「愛の力」だと思います。

僕自身子どものころから、素直になれない連中と付き合ってきたから感じるんです。

素直になれない子に
は、態度で「愛して
るんやで」を表現し続け
ること。
合格点は相手が決め
るんよね。



本気で、計算なく体当たりで、愛の言葉を伝え続けた人には、人は素直に、敏感に反応するんですよ。

本気かどうかわかるしね。

そんな、どんな子も「うちの子」「うちの心」を、長屋育ちの僕は、長屋のお節介で学びました。

だからこれを読んでくださってるあなたもレモンさんとは長屋のシンセキなんです！

ゴメンね！

